

令和元年 網走市議会
新 庁 舎 建 設 特 別 委 員 会 会 議 録
令和元年 9 月 20 日（金曜日）

○日時 令和元年 9 月 20 日 午後 1 時 49 分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 新庁舎建設に係る調査研究について
2. その他

○出席委員（8 名）

委 員 長	近 藤 憲 治
副 委 員 長	川原田 英 世
委 員	石 垣 直 樹
	栗 田 政 男
	立 崎 聡 一
	永 本 浩 子
	松 浦 敏 司
	山 田 庫 司 郎

○委員外議員（1 名）

議 長	井 戸 達 也
-----	---------

○傍聴議員（5 名）

小田部 照
金 兵 智 則
平 賀 貴 幸
古 田 純 也
村 椿 敏 章

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
庁舎整備推進室次長	岩 永 雅 浩
庁舎整備推進室次長	佐々木 浩 司
庁舎整備推進室参事	北 村 幸 彦
庁舎整備推進室参事	日 野 智 康

○事務局職員

事 務 局 長	大 島 昌 之
次 長	細 川 英 司
総務議事係長	高 畑 公 朋

午後 1 時 49 分開会

○近藤憲治委員長 お疲れさまでございます。

ただいまから、新庁舎建設特別委員会を開会いた

します。

本日の委員会ですが、まず網走市新庁舎建設基本構想策定検討委員会の会議結果について、理事者より説明を願います。

○日野智康庁舎整備推進室参事 それでは、私のほうから新庁舎建設に係る検討委員会の進捗状況等について御説明させていただきます。

最初に 8 月 5 日から 8 月 29 日にかけて、まちづくりふれあい懇談会を市内 9 か所で行いました。

この中の一つの議題として、53 回行った新庁舎建設に係る住民説明会の中で寄せられた主な御質問や御意見の内容等をお知らせするとともに、それらを踏まえて御質問や御意見を聴取いたしました。

御質問、御意見の中から新庁舎建設にかかり議論を進めていく中で、ポイントとなる質問等につきましては、検討委員の皆様にも御報告させていただいているところでございます。

また、詳細につきましては、全てを文書で委員様に提出いたしまして、あわせて市ホームページにも掲載しておりますので御確認いただきたいと思います。

次に、網走市新庁舎建設基本構想策定検討委員会の進捗状況でございますけれども、7 月 24 日に第 2 回、9 月 4 日に第 3 回の検討委員会を開催いたしております。

議題といたしましては、1 点目は構想編部分のたたき台案について、そして 2 点目は新庁舎の建設場所についてということで、委員の皆様には御議論、御検討いただいております。

第 2 回目の検討委員会において、基本構想策定のスケジュールにつきましては、国の財政支援制度を活用することを見据えて、事務局から提案のあった基本構想策定のスケジュールに沿って、来年 6 月を成果のめどとして議論を進めていくことを確認いたしました。

また、建設場所につきましては、第 2 回から議論をしてきましたが、第 3 回目の検討委員会において、建設地としては金市館ビル跡地周辺敷地とすることを大方の賛成をもって決定し、今後は計画編の議論を進めていくこととなりました。

建設地決定に至った流れについてでございます

が、第3回目において、委員長のほうから出席された全委員に対し、建設位置はどこがよいのか、またその理由について聴取いたしました。

その後、決定については、今回の検討委員会で決定するか、または次回の検討委員会まで持ち越すかの確認を行いました。

複数の委員から「今回で決してよいのではないか」という発言がございまして、これに対する異論がございませんでしたので、建設地として1番多かったのは、金市館ビル跡地周辺敷地が多かったということで、委員長から賛成の方の挙手を求め確認いたしました。

この結果、委員長を除く19名の方のうち16名の賛成を確認して、検討委員会としての建設地は金市館ビル跡地周辺敷地とする決定に至っております。

なお、各委員からいただいた賛成意見の理由としては、「どこの候補地にしても一長一短がある」「建てる段階のコスト、スケジュール感、周辺地域との関連性など総合的に考えなければならない」「視点を固定すると絶対にまとまらない」「総合的に判断すると、金市館ビル跡地周辺敷地」「下町は中心としての役割を果たしている」「中心市街地の活性化、都市計画マスタープランなどを踏まえると、中心市街地と評価する」「将来の網走を考えると、中心的な役割の場所として1番ふさわしい」「交通機関が1番整っている」「網走市全体を考えると中心的な場所、そして防災も考えると町なかに大きな建物が必要である」「非常時に下に避難場所があるのは心強い」「災害時に対応できる建て方などが示せれば賛成」「網走の中心地であるし、観光客の方が一の避難場所となる」「国道にも2面に面している」「防災のサブ的な機能は上にある」「商店街からの要望もある」「市の財政も含めて、できるだけスピード感を持って早く安いコストで建てることを考えると、金市館ビル跡地周辺敷地」「人口減少で、空洞化させてよいのかということを考えると、庁舎は市中心市街地」「団体としても要望を出している。」

このような御発言がされております。

また、反対意見の理由といたしましては、「防災拠点としての懸念がクリアされていない」「金市館ビル跡地に建てたとして、本当に活性化できるか懸念がある」「道路の問題はあるが、除雪センターでよい」「津波災害、お金がかからない、更地、道道に面している、これらを考えると、駒場運動公園横

のスパーク網走の前がよい」

このような御意見、御発言をいただいております。

また、複数の委員から「建設地周辺の土地を取得してはいかがか」との御意見もいただいておりますので、今後検討委員会で議論を進めていくこととしております。

検討委員会で配付した資料及び議事録につきましては、市ホームページで閲覧できる状況になっております。

なお、次回の第4回の検討委員会を10月1日で現在調整しておりまして、議題といたしましては、基本構想の構想編部分の修正確認、そして敷地の取得について、アンケートの実施などについて議論していただく予定でございます。

新庁舎建設に係る検討委員会の進捗状況については以上のとおりでございます。

○近藤憲治委員長 はい、ただいま、説明をいただいた内容について、確認事項等ございましたら御発言をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

○松浦敏司委員 この新庁舎建設にかかわって、そもそもの始まりは、平成23年の東日本大震災が発生して、日本全国どこでもそれらを教訓にして、そしてその対応ということで耐震化の調査だとか、いろいろやった結果、網走市としては、最終的に市の本庁舎をまず建てかえるという、こういう経過の中で今日に至っていると思うのですが、やっぱり1番大事なのは、この災害、東日本大震災のような大きな地震があった場合の災害に備える、そういう建物というのが必要になってくるのだろうというふうに私は思っています。

そういう点で、今回のこの新庁舎の第3回の検討委員会の中で、金市館跡地がいいというふうな結論に達したということを、それはそれで検討委員会の結論ですから、どうこうということは軽々に言えませんが、ただ一つ気になるのは、3回の検討会議の中で、賛成多数で決めるというのが本当にいいのかという点で、私は非常に疑問が残ります。

もっと議論をして、いろいろな声を聞く中での結論であれば、それは理解できないわけではありせんけれども、余りにもちょっと拙速ではないかなというふうに思うのですが、その辺まず伺います。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 そもものところについては、松浦委員のおっしゃるとおりだと思います。

ます。

大事なのは災害に備える建物で、いかに人的な被害を少なくするかということです。

そこで、その危機を守るとすれば、高台に建物を建てたほうがいいというのは我々も同じような評価をしています。それらを53回の地域の説明会、それからまちづくり懇談会などで説明しています。

その中で出た意見をまた、まちづくり懇談会でフィードバックをして、さまざまな御意見をいただいています。

その内容を全て、検討委員会の皆様に事前にお知らせをして、会議のときには、それを読み込んで来ていただいて判断をされていますので、何かこう拙速に物を決めたということではないだろうなというふうに思いますし、説明があったように、第3回で決めるのか、もう1回持ち越すのかという確認も委員長からされていますので、そこは委員さん全体の判断で、第3回の時点で決めたということです。私たちのほうからそれについて、どうこうということは、差し控えたほうがいいのかなというふうに思っています。

○松浦敏司委員 はい、それは検討委員会の結論ですから、それはそれとして、その検討委員会の結論ですから、ただ私の思いとしては、もっと慎重であるべきだというふうに思います。

それで、私自身も専門家ではありませんから、よくわかりませんが、あの地域というのは砂地で、そして金市館が建つときになぜ耐圧盤をつくったのかというようなことも考えたときに、やっぱりそういった多分、市の方でも当時の地盤調査、地質調査の結果なんかもつかんでいるのだと思うのですが、決していい条件の場所ではないというふうに私は思います。

砂地で、そして水が湧くような所でもあるというふうにも聞いています。

そういう点を考えると、そこに高層の建物を建てて、そしてまたどう考えても、5条と6条の間に建物を建てるとすれば、ほかに建物があるということで、市の機能を果たすという点でも非常に不便だというふうにも思います。

そういう意味では、あそこに本当の意味で建てていいのかという点で、私は非常に不安があります。

聞けば聞くほど、そういう不安の声が出てきます。

確かに、あの近隣にいる方たちは、そういうこと

を求めているかもしれませんが、やはり、そもそもの災害発生から、どう市民の命を守り、職員の命も含めてですけれども、そういった点で考えたときに、本当にそれでいいのかという点が私も不安に思っています。

それ以外の、この場所に建てかえるべきだという声とか、あるいは駒場に、あるいは潮見にという声も私も幾つも聞いています。

そういった点で、余りにも今回の第3回目の検討会議で、こういう形になってしまったのは非常に残念ですし、もっと私は広く市民の声を聞く必要があると思います。

もう1点伺いたいのは、今回53回のまちづくりふれあい懇談会をやってきておりますけれども、ここにはどういう人たちが参加しているのか、いわゆる一般市民、あるいは現職の労働者といった人たちがどれぐらい参加しているのか、その辺を伺いたいと思います。

○日野智康庁舎整備推進室参事 53回の地区の説明会ですけれども、まず最初に地区の町内会連合会の皆様をお願いしたという経過がございます。

その地区の町内会に声をかけていただいて、都合のいいときに集まっていただくというような手法が一つです。

あとは、老人クラブ、ふれあいの家、そして民生児童委員などにお声かけをさせていただきまして、例会等があるときにお邪魔させていただいて、説明に回らせていただいたというような状況でございます。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 一部補足をさせていただきたいと思いますが、その後にあったふれあい懇談会につきましては、例年は町内会の役員の方が参加者としては多いのですが、今、参事から説明した地域説明会については、それらと比べるとかなり若い方、働いている方の参加が多かったということや、それは市街地ばかりではなくて、西地区の中では圧倒的に若い方が参加をしていただいて、公共交通機関を使えない立場で、庁舎の位置について各御発言をいただいたりということがありましたので、かなり幅広い層から御意見を伺えたというふうに考えています。

○松浦敏司委員 53回をやって、そこにはどれぐらいの参加があつて、若い比率というのは何歳から若いというふうに言うのかわかりませんが、20代、30代、40代ということが若い人たちだと思うのですけ

れども、実際にこれから新庁舎を長い間使うのは、やっぱりそういう人たちだと思うのです。

だから、そういう人たちの声を聞くというのは非常に大事だと思うのですけれども、その辺この53回の中でどのぐらいの参加で若い人たちの参加はどれくらいなのか伺います。

○近藤憲治委員長 感触として押さえている程度ということですので…

○日野智康庁舎整備推進室参事 何十代の方が来ていただいたかというのは、一人一人の年齢層を確認してございませんので、人数のみの把握ということをやっております。

そこで998名の方が参加していただいたということで、53回で確認しているところです。

見た限りですけれども、西部、南部地区の説明会では、やはり農家の方が多いという部分もございまして、30代、40代の青年の方が非常に多かったなという個人的な考え方ですが、印象として残っているところでございます。

学生については、例えば農大生ですとか中高生の参加というのは、高校生の参加はお迎えの関係もあって会場に同席されていたというような案件は見ましたが、私が参加したいというような意欲的になという状況は見られなかったと考えているところでございます。

○松浦敏司委員 西部、南部というのは、いわゆる農村地域のことを言うのではないかと思いますけれども、それはそれとして、そういう人たちが主流になっていますからいいとは思いますが、いわばその町なかの人たちの中でどうかという、私は駒場に住んでいるので、駒場の住民センターに参加してきましたけれども、ほとんどは高齢者です。

ほとんどといいますか、60代が数名、それ以外は70代、あるいは80代という状況でありました。

私のところにも手紙なんかも実は来ています。

それで、その人が書いているのは、やはりこれから市役所を50年、60年使う上で、1番使うのはそういう若者であると、この若者の声を聞かなくして、なぜ建物を建てることができるのだ、場所を決めることができるのだという声もあります。

そういう意味では、やっぱり夜だけではなく、平日だけではなく、土日なんかも含めて、若者が、労働者がそこに参加できるような場所も作って、そしてそういう人たちの声を聞くというのも私は大事なことだと思います。

高齢者の皆さんの声を聞くのも当然大事です。

大事ですけれども、そのほかに若い人たちを中心とした、そういった懇談会、意見を聴取するという考えはないのでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 地域説明会につきましては、夜、あるいは平日だけに行ったわけではなくて、土日であったり、昼間であったり、さまざまな時間帯を設定しました。

町内会の皆様にも声かけをお願いして集めていただきましたけれども、そのほかにも、さまざまな広報手段を使って、どの地域にお暮らしになっていても構わないので、この場所で、この時間帯で御説明するというのも周知をしながら、これを開催してきましたので、そこを配慮しなかったかという、そうではないというふうに我々としては思っていますが、十分だったと言われると、実績としては押さえていませんが、まず委員がおっしゃるような会場も、もちろんあったというふうには理解をしています。

○松浦敏司委員 いずれにしても、結果としては、若い人たちの声を十分に聞かれていないというふうに思います。

そういう意味では、やはり大事な市庁舎でありますから、その辺も今後、市としても取り組んでほしいし、私も今、できるだけ地域の懇談会を開いて声を聞こうと思っています。

まち場の、いわゆるこの市役所近辺あるいは旧金市館跡地近辺の人たちからは、比較的「金市館がいい」という声も聞かれますけれども、私が住んでいる駒場、潮見あたりに聞くと、いわゆる防災関係から言えば、やっぱり高台がいいのに決まっているだろうと、やはり1番大事なのは、市民の命を守ることだと、市の職員も守ることだという点からすると、やはり低いところよりは高いところがいいに決まっているだろうというお話もあります。

ここはなかなかある意味、一長一短というお話もありましたけれども、難しいところですが、しかし、現在のこの場所よりも少なくとも条件の悪いところは選ぶべきではないと私は思っております。

そういう意味では、金市館跡地が本当にいいのかという点では、私は現時点では結論を出せませんが、なかなか条件としてはよくないかと、こういうふうに思います。

いわゆる金市館跡地は砂地であり、震度7前後の

地震が起きると、液状化ということも十分考えられるという所でもあるのかなと、これは専門家ではないから確定したことは言えませんが、そういうことも考えられるということなので、もっと広く市民の声を聞くべきだというふうに私は思います。

○近藤憲治委員長 他の委員の方。

○永本浩子委員 私も前回の第1回目のときにも、松浦委員も言われましたけれども、もう少し若い人の意見、例えば商工会議所とかそういったところを通じてでも、これからの網走を担っていただく方の意見もぜひ聞いてもらいたいということをお伝えしたところなのですが、それでも、それも今、松浦委員のほうからもいろいろお話がありました。

先日、市の方たちが入らない形の市民の新庁舎に関する意見交換会というものがありまして、そこに参加させていただいたときに、確認しておかなければいけないなと思った事案が幾つかありまして、一つは、金市館跡地の耐圧盤の工事をしたときに、非常に大きな水脈が流れていて、そこから水が出て大変だったということがあって、実際、建物を建てるのは、後側の5条と6条の間の今は駐車場になっているほうだということではあるのですが、実際、例えばその工事になったときに、そういった水が出て大変になってしまうといったことはもう既に検証済みなのでしょうか。

○日野智康庁舎整備推進室参事 金市館跡地の地質等の状況について、ということだと思いますけれども、実はまちづくりふれあい懇談会の中でも、あそこの地質は大丈夫かどうかというような御質問をいただいております。

金市館跡地の地質状況について、私たちのほうで、まず金市館を建てたときの状況、そして金市館敷地周辺にある高層な建物の建築図面、そして地質の状況、これは形状図などを確認いたしました。

その結果、周辺の建物、8階建ての建物等が建っているのですが、建物を支える基礎の下に5メートルから7メートル程度のくいを打てば、建物を支える地盤となる支持層というところに届くということを確認いたしました。

そして、また地質データの確認によりまして、このあたりは大体1.5メートルから1.8メートル程度掘ると水が出るということがわかりました。

そして、周辺の高層な建築物の施行にかかわった工事関係者にも、当時の工事のことを確認してきましたけれども、作業する際に「水が出て苦労したと

というような記録はないですよ」ということも確認していますので、地質の状況については問題がないというふうに認識しているところでございます。

○永本浩子委員 1.5メートルから1.8メートル掘ると水が出るということで、今お話があったのですが、高層の建物を建てるとなると、かなり掘らなければいけないのではないかなと思うのですが、素人なのでその辺のところはよくわからないのですが、水が出るというのはわかっているけれども、大丈夫ということなのでしょう。

○日野智康庁舎整備推進室参事 私も実は専門家ではないのですが、そのときの工事関係者に聞いたところです。

建物を建てるときに、掘って地下水が出る、水が出るというのは当たり前だということをお聞きしました。

後はその量だとかによって、土どめの仕方だとか、基礎をどうやって打つかというところを考えていくので、そういうようなことを考えてまで周辺の高層の建物をつくった記憶はないですよという確認です。

○佐々木浩司庁舎整備推進室次長 補足説明をさせていただきます。

通常、水が出る場合、水をくみ上げながら工事のほうを進めるのですが、くみ上げたときに一気にくみ上げると、周りの地盤に沈下が起きたりとかそういうことも考えられますので、当然そういう事態を生じないような仮設、例えば締め切って水をくむ範囲を決めるですとか、そういう補助工法を適切に行えば周りに影響もないですし、安全に工事が行われると、そういうことで工事業者のほうでは、そういったちゃんとした施工管理をして問題がなかったという形でお話がされたのだと思っています。

○永本浩子委員 一応そういった専門家の意見も聞いて、ここに建てても大丈夫だという判断下したということで、理解させていただきました。

また、ラルズがあったところは駐車場にするということなのですが、あそこを解体する時に国からの交付金を使ったのだと思うのですが、その交付金の目的というのが、商店街の活性化のためという名目で交付金をいただいたのに、そこが駐車場になってしまって、交付金をいただいたときの名目と違う形の使用状況になったときに、その交付金は返さなければいけないのではないかなという御心配の声もあったのですが、そういった点

はどのようなのでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 今、永本委員がおっしゃったとおり、国からの補助をいただいたときの要件はコミュニティー機能を持たせて活性化をさせるということで整備をしたという経過です。

この空間を日常的な駐車場や非日常でのイベント広場等として活用するという、今構想している内容については要件に合致するということを確認しておりまして、今後も今のような土地利用については継続することが可能だというふうに判断しています。

○永本浩子委員 その点は、既にもう確認済みということで了解させていただきました。

また、「今の現庁舎が建っているところに建てたほうがいいのではないか」という御意見もたくさんありまして、金市舘跡地のほうに建てる場合と建てた場合、ここの今使っている本庁舎と西庁舎がそちらに多分引っ越しをする形になった後はどうするのかというのと、金市舘跡地ではなくて、ここの本庁舎の今建っているところに新しい庁舎を建てた場合のメリット、デメリットというようなところの比較検討というのは、今回のこの検討委員会の中ではされたのでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 現庁舎敷地で建設をする場合について、それがいいという御意見が地域の説明会でもありました。

ありましたので、それについては、そういう意見があったことと我々の答えを検討委員の皆さんにあらかじめお伝えして、それを参考にして議論していただいています。

我々の答えとしましては、現庁舎で建設する場合、庁舎の解体の費用負担、仮庁舎や仮駐車場の確保やその費用負担が生じるということを懸念しております。

また、駐車場敷地に建設をすると言った場合についても、閉庁長時間帯での工事になることを想定すると、いわゆる早期性といった、国の財政支援を受けるということについては担保できないというふうに判断したということがあります。

またその後、調べてみますと、駐車場で建てるということにした場合については、大型の建設機械を置く場所がないということもありまして、さまざまな困難性があるなというふうに判断をしたということです。

○永本浩子委員 そしてまた、もし金市舘跡地のほうに建てた場合を想定して、結局ここの今の本庁

舎、西庁舎があいた形で残るわけなのですけども、ここの取り扱いというのはどのようにお考えなのでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 将来的には現庁舎は解体することになると思いますが、当面は駐車場部分を公用車駐車場として利用したいというふうに考えています。

土地については、売却をして解体費用を賄ってきたいというふうに考えています。

○永本浩子委員 一応私のほうからはこれで一旦終わらせていただきます。

○近藤憲治委員長 他の委員の方いかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 ちょっと冒頭、この委員会の進め方について、確認させてもらいたいのですが、理事者の方が来ていますから、今両委員から質問もいろいろあってやりとりをしています。

こういう形で進めるのであれば、私もちょっと頭を切り替えなければならないのですが、まず冒頭、ふれあい懇談会の話がありまして、それと検討委員会の結果の報告がありました。

これについて、ちょっとやりとりをして、後は委員会として、これからの方向をみんなで議論しようという考え方をちょっと聞いていたのですが、こういうやりとりをするのであれば、これからずっとやるならやっていきますけれども、その辺ちょっと整理して下さい。

○近藤憲治委員長 山田委員ありがとうございます。

今回の委員会は、もともとは各委員の皆様の論点整理の場として設定をさせていただいたのですが、タイミングとして市のほうで進めておられる検討委員会についての進捗もございましたので、それを前段で御説明いただいて、そこに係る意見交換を若干していただいた後、委員の皆様での論点整理に入っていきたいというふうに考えておりますので、山田委員の御理解でよろしいというふうに思います。

○山田庫司郎委員 そうしたら、そういう整理で、今報告いただいたふれあい懇談会、それと検討委員会の結果等を聞きましたので、何点かちょっとお聞きをしたいと思います。

二人の委員からも質問がありましたから、ふれあい懇談会を9カ所でやったのですが、参加者は何名でしたか。

○日野智康庁舎整備推進室参事 ふれあい懇談会ですけれども、9地区で154名の参加者ということで把握しております。

○山田庫司郎委員 この参加者も年齢は別にして、やはり町内会役員の方とか、そういう方が多かったのかとか、ちょっとその辺の実態も含めて把握していれば。

○日野智康庁舎整備推進室参事 各町内会を拝見させていただきますと、大体役員さん等が多かったかなと思います。

と言いますのは、53回の地区説明会の時に、説明させていただいたときの担当していただいた方が、再度来てくれているというようなことで拝見しております。

○山田庫司郎委員 わかりました。

53回やった地区の町内会の説明会のときに関連する方が出てきて、意見交換が充実したかとかそれは別にして、大体やっぱり限られた部分の参加だったということで、把握をさせてもらうわけですが、検討委員会の関係でちょっとお聞きをします。

委員は全体で26名でしたっけ。

○日野智康庁舎整備推進室参事 25名になっておりまして、各市内の団体からの代表者が20名、そして5名が市民公募委員数で総勢25名です。

○山田庫司郎委員 先ほど報告いただいた中で、委員長を含めて20名の参加があったというふうに、数字的に把握させてもらうのですが、5名の方が出席できなかったと、それで結果的に多数決ということになったのか、新聞等いろいろ見ますと、多数決ではないという言い方のもいろいろあるのですけれども、結果として16対3ということで、お聞きをしています。

それで、松浦委員からもちょっとありましたけれども、私たちの立場では、これは検討委員会は検討委員会で独立した機関ですから、私たちが手を突っ込んでどうだということにはならないと理解をしているのですが、それで先ほどの報告の中で「道路に面した部分の土地の取得を検討すべきだ」という意見が出されたという報告があったのですが、そこについてちょっと詳しく説明いただきたいと思います。

○日野智康庁舎整備推進室参事 先ほどの報告の中での「近隣周辺敷地を取得しては」というお話についてだと思いますけれども、これらの意見につきましては、実は第3回目の検討委員会のほうで、委員

のほうから出た意見でした。

「建設候補地はここでもいいのだけれども、やはり将来的に使う施設になりますよねと、まあ足りないことはないのだけれども、もうちょっと周辺にあるような更地については取得したほうがいいのではないかと、そのほうが設計等しやすいと思います」というような御意見と、あとは「市有地の何処かと代替地と交換してはどうなのだ」というような意見の委員さんもありましたし、もう1人の委員さんからは、「やはり営業しているようなところも含めて一角を全て取得してしまっただけで建てたほうが、将来的にはいいのではないか」というような御意見をいただいているという状況でございます。

○山田庫司郎委員 ということは、委員の中から意見があったということだけであって、検討委員会としてそれを一つのまとまった意見として、市のほうに報告があったという位置づけではないのですね。

ちょっとその辺、重要なところなので聞かせていただきたいと思います。

○日野智康庁舎整備推進室参事 前回の第3回目で、そのような意見が複数の委員から出ましたので、第4回目の会議を10月1日に行いますけれども、そこの取得のところの考え方について、ほかの各委員さんも含めてどのような考え方で進めていくかということです。

というのは、そこの部分が決まらないと、取得したほうがよいのではないかとされた委員に関しましては、そこのストックを進めないで、配置だとか、規模というものが決まっていけないのではないのかということです。

だから「そこは、ちょっと1回皆さんがどのように考えているか整理したほうがいいですね」という御意見をいただいているので、取得する、しないということをその場で決めるのではなくて、まずはそこをどうすればいいのかというところを御意見いただきたいなと思っているところでございます。

○山田庫司郎委員 そうしましたら、10月1日に予定している第4回目の検討委員会の中でも、その辺の議論にまたなるかもしれないということですね。

これは相手のあることです。相手の物ですから、買うべきだ、よこすべきだという議論は、発言の表現を間違えますと大変失礼なことになりますから、そこは十分配慮しながらということにももちろんなるわけですが、今言われたようなことも含めて、検討委員会の中で議論があったということで、

まずそれは現実として報告いただきました。

あとは、先ほどちょっと私が確認させていただいたように、この後は委員会として、そのときに私の考え方や課題も含めてまた発言させていただきたいと思うのですが、永本委員、松浦委員から出ていたように、やっぱり53回と大変努力されて大変だったと思いますが、それとふれあい懇談会も9カ所開催をして多くの市民の意見を聞いたということは、まあ一つ評価をいたしますけれども、やはりどうしても対象者が偏っていた。

結果的に若い層の意見を聞く機会が少なかったということは、これは確実に私は言えるだろうと思いますので、これから残った時間の中でどういうふうにしていくかということも一つありますけれども、それはまた議会の議員として、多くの市民から意見を聞いたものをまたここに持ち寄るということも一つありますけれども、今後何か新たな部分で、こういう対象者にしてまた説明会をやってみるという考え方が何か新たな部分というのはあるのでしょうか。

○近藤憲治委員長 山田委員、それは説明会というスタイルに限定をしてという考え方ですね。

それ以外の意見聴取でなくて、とにかく説明会というスタイルでということですね。

○山田庫司郎委員 そうです。

何かあるのであれば。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 推進室としては、建設位置に関する説明会については今後行う予定は今のところはございません。

ただ、どういう機能を持つのかといったことについては、若い方の意見を聞く場を設けるというのは、当初から予定をしておりましたので、その準備は進めております。

○山田庫司郎委員 今、次長から言われたように、こちらからは出向くという考え方はないけれども、仮に声がかかったり、呼ばれる場合については積極的に出て行って対応していきたいという考え方だということで理解をさせていただきます。

以上、わかりました。

○近藤憲治委員長 他に確認事項ございますか。

○松浦敏司委員 先ほどいわゆる建物と土地の関係で意見が出たということですが、やはりそれは当然だなというふうに思いますが、ただそういう声が出ているのに結論を出してしまったというか、検討委員会として金市館跡地がいいというふうに多数決で

決めてしまったというのは、どうしてそんなふうになるのだろうと、せっかくそういう意見が出て今後検討しなければならないのに、場所の設定を決めてしまったというのは、これはどうも私は腑に落ちませんが、その辺どんなふうに考えているのでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 前回の検討委員会の中で「周辺の土地についての考えも持ったほうがいいのではないか」と言ったのは、複数の方です。

その方については、建設場所としては金市館ビル周辺跡地がいいと、ただ周辺の土地も確保できるのであれば、さらにいいのではないかという御意見だったということです。

それからの多数決というふうに何度もおっしゃっていますが、最初に参事が説明したとおり、委員長からは委員全員の方の意見を聞いた上で、確認の意味で挙手を求めたということですので、いきなり賛成なのか反対なのかということでは問うたわけではないということは御理解いただければと思います。

○松浦敏司委員 いやでも多数決ですよ、それは…一人一人の意見を聞いて、反対の人が3人いたわけでしょう。

そこで賛成がいいでしょうという人が16人いたということは、基本的にはそれは賛成多数で決めたというふうに、一般的にはそういうことでないかなというふうに思うのです。

議論が出尽くして、そして最終的に多数決というのは、当然それはもう当然あることだと思いますが、委員長が幾ら確認したとしても反対の人がいれば、それは3人いたのは事実ですから、そして賛成したのは16人というのであれば、多数決というふうになるのではないですかね。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 参事からも説明したとおり、第3回の委員会で決定するというのではなかったわけですね、皆さんの意見を聞いた上でさらに議論をするかどうかということを確認した上で、反対した方からもさらに検討をしてくれという御意見がなかったので、最終的に挙手を求めたということです。

○松浦敏司委員 とはいえ、やっぱり16対3ということですから、これは基本的には多数決ではないのですか、全員一致ならば全会一致というふうになるだろうし、ちょっとその辺では私の認識は多数決だなというふうな認識です。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 松浦委員がおっし

やったとおり、議論がもう達したといえますか、その後であれば多数決はいたし方ないという話をお話をされていましたが、委員長の判断はそこだったと思います。

全員の御意見を聞いて3名の別の意見の方もいらっしゃいましたけれども、さらに議論をするかどうかということを確認したときに、そういうことが必要だという意見がなかったわけです。

なので、そこで最終的にここで確認しましょうということで、挙手を求めたということです、最終段階ということの判断だったというふうに我々は横にいて感じておりました。

○山田庫司郎委員 大事なところなのです。

それこそ、委員長さんに確認しなければだめなのかどうかですけれども、16人の賛成者がいましたということで、それは確認をしたという意味なのか、私どもとしては16対3で、3名の反対がいたけれども16人の賛成者がいたから、あそこの場所が適地だという委員会の結論が出たのだという考え方でいるのですけれども、結果として結論が出たという言い方をするのですけれども、もう次の議論は必要がないのでという中で、16人の賛成がいたのでしたら、ここが適地ということでよろしいですねという確認をやっぱり委員会しているのですよね。

だから委員会としては、あそこが適地ということの結論が出たというふうに私どもは考えているのですが、それは間違いないということですね。

多数決のやり方がどうだとか、別に手法は別にしても、結論が出たということでいいのですね。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 委員会としては議論を尽くされた上で、確認をして結論を持ったというふうな判断だったというふうに思います。

○山田庫司郎委員 どういう投票したのか、そういうことは別にして、挙手があったのは聞いていますけれども、結論が出たということを、そこだけ確認したかったのでわかりました。

○近藤憲治委員長 他に確認事項ございますでしょうか。

○栗田政男委員 検討会議のほうは盛んに精力的に行われているのですが、残念ながら我々議会のほうのこの委員会は2回目ということであります。

6月にやって、今回9月ですから、間もあいていますので大部記憶が飛んでいるところもあるのではないかなというふうに思うので、再度確認をしますが、まず誰が考えても、その適地とされている場所

は狭いなというふうな認識を持つのですが、これは十二分な面積が足りるとは誰も思っていないだろうと思いますし、そこで問題なのはそこに行かれるいろんな経緯を聞きました。

避難地域のことも考えなくちゃいけない、四条商店街の活性化も図りたいということです。

その辺の明確なグランドデザインそういうものがしっかり出てこない、いずれにしても議論にならないような気がしてならないのですが、この前に説明をちらっと受けただけでは、なかなかグランドデザインが出てきていないのではないかなという気がしてならないのですが、それについての見解はどうでしょうか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 栗田委員から今御指摘のあったグランドデザインについては、今市長が諮問している基本構想そのものだというふうに思っています。

現在、検討委員会の中で候補地が決まりましたので、狭いという御指摘がありますが、その面積の中で、地形の中でどういう機能を持った庁舎を建てるのかといった議論が始まりますので、そこで深まっていくというふうに考えています。

○栗田政男委員 つまり順番からいくと、やっぱり場所の選定というものはすごく重要な作業になるのだろうかというふうに思うのですね。

今回、検討会議の中ではある程度コンクリートされたということなのですが、その結論をもって我が議会のほうとしては、どういう判断に基づいていろいろな決議に当たっていくのかなというのは非常に迷っているということが正直なところなのです。

その検討委員会の位置づけというのは、再度お尋ねをしたいのですが、市民の方の有識者の大切な会議ですから、我々議会としてもそれは尊重はしますが、どういう位置づけで捉えればよろしいのですか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 市長の諮問を受けて、構想について答申をしていただくという組織です。

20名の方は、市内のさまざまな団体の代表、それから5名の市民公募委員で構成をされているということでございます。

○栗田政男委員 市長が諮問をして、そういうものを集めていつから、まあきょうがそういうときなのでしょうけれども、その検討結果については逐次議会に報告いただきながら、私たちは検討していかな

ければならないということになろうかと思います。

非常にそちらの進みは速くなってくるでしょう。

場所は決定したということですから、次回からはその内容についてということです。

ただし議会のほうとしては、何にも場所も決定とかその議論さえもまだしていない段階なものですから、先ほどお話の中にも出ていましたが、来年6月をめどに進めなければならないということで、スピード感を持って進んでいかないと、我々も次の議論に入っていけないのかなという気がしているのですが、もちろん我々のほうの委員会を開く回数が少ないのもあるのですけれども、そういうことも含めながら、ちょっと情報が不足しているように感じます。

まずはもう一度、再確認をしたいのですが、何のためにあそこに庁舎を移さなければならないのでしょうか。再確認です。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 私たちの判断は、総合的なという言い方をしていますが、総合的な判断とは何かといったところだと思うのですけれども、市民にとって便利な立地なのか、あるいは少なくとも今より不便になる地域が出ないかといった点については、地方自治法に適合しているかどうか、あるいは市の関連計画に合致しているかというのが一つ目です。

それから二つ目は、かなり市民の方からも指摘をされている災害拠点としての対応機能ですが、これが今よりも向上するかどうか。

そして3点目については、経費をかけずに早期に建設できる方法、場所はどこかといったことで判断をしたということでございます。

○栗田政男委員 それを確認、前と同じ説明だと思うのですが、その中で俗にいう四条商店街の活性化という部分はどういうウエートで捉えていらっしゃるのか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 中心市街地活性化につきましては、これまでも市長が何度かお話をしていますが、庁舎をそこに建てたからといって、中心市街地が活性化するものではないということです。

3回目の検討委員会の中でも、委員からありましたけれども「そこは民間に任せてくれ、そこは民間の出番なのだ」という御発言をされていたので、私たちも民間の取り組みに期待したいというふうに思います。

○栗田政男委員 今そういう見解だということは確認をいたしました。

ならばというところなのですが、それはそれとして、市長サイドが考えているのは、あそこの場所が適地ではないかという方向で進むのだということなのですが、何分にも諮問会議というのは僕も何度も参加をしていますからよくわかっていますが、やはり市長提案のものに対しては、みんなそこにモチベーションされるというのはしょうがないことなのですね。

どうしてもそれは当たり前なのですよ。

そこで、いろいろ大きな意見とか反対意見は言えない環境というのは、空気の中にもあるのですね。

ですから一概に…

○近藤憲治委員長 栗田委員、この後に委員の皆さんで論点整理もありますので、今後の当委員会での議論の進め方、また明らかにしたい論点含めて、委員の皆さんでやりとりしていただく時間を設けていますので、その場で発言をしていただければと思います。

○栗田政男委員 わかりました。

それでは、その内容についてはそのときにお話するようにしますが、わかりました。

まず4条は関係ないと、あそこに持っていく上では、それを意識してつくったわけではないという確認をさせていただいて、それでいいということなのですが、何分にも周辺には市民会館とか美術館とかの関連施設がありますし、その土地もございます。

そういう場所との今後のリンクということは、現在のところはそれを一切考えていないという形よろしいですか。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 庁舎と関連する施設であったり、4条通りで今の置かれた状況が全く関係ないという話はしていないわけです。

そこについては、地方自治法でも関連する官公庁も含めて関係性を強めなさいということを言っておりますから、そこは当然やっていきますが、先ほど申し上げたのは庁舎が移ることによって活性化がなし得るのだということではないのですということをお伝えしたかったということです。

○栗田政男委員 詳細については、またお聞きをいたしますけれども、基本は庁舎というものはどこの地域でも、現庁舎の建てかえは原則だと思います。

それは、今答弁の中で解体費が出ないとか云々ということがありましたけれども、いずれ壊すのです

から解体費を捻出しなくちゃいけないので…

○近藤憲治委員長 栗田委員、先ほども申し上げましたけれども、そういったもろもろの論点含めて、この後の委員会で議論していただきたいと思います。

暫時休憩いたします。

午後 2 時 45 分休憩

午後 2 時 46 分再開

○近藤憲治委員長 それでは、再開いたします。

○栗田政男委員 検討委員会の中では、一応そういう結論が出たということで理解をいたしました。

そういう中で、今後も引き続きやられるということなので、逐一私たちのほうに内容については、もちろんそこに参加できれば 1 番ベストなので、いろいろ参考にさせていただきながら議論を進めていきたいと思います。

○近藤憲治委員長 他に確認事項ございますか。

○川原田英世副委員長 ちょっと確認したいことがあって、先ほどあったことの関連なのですが、今回の第 3 回の委員会の中で決定をした中で「もう少し面積を広げたほうがいいのではないのか」という意見があったということですが、その今後の扱いについては、先ほど答弁があったところだったのですけれども、ただこれまでの説明では、そういった考えは持っていないということが事前にあったということで、その中で先ほどの説明でいくと、そういった方向性を明確にしておきながらも、委員会でそういう意見が出てきた。

例えば、この次の中で広げたほうがいいのではないかと委員会で決まった場合は、今まで説明してきたことを変えて、違う方向に進む方向性もあるということで理解していいのか、そこを確認したいと思います。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 構想検討委員会の答申については、最大限尊重しなければいけないというふうに思っています。

私たちは当初、川原田委員が言ったとおり、大きな移転補償費がかかることが懸念されるので、今ある更地のところで建てるということをずっと申し上げてきました。

その中で、市民説明会の中でも同様の意見もいただいておりますので、それも検討委員会に報告し、検討委員の皆さんも、それを多分ごらんになっていることだと思いますけれども、同じ意見、それからもっとさらに広げた意見をいただいておりますの

で、そこは検討委員会の議論だというふうに思っています。

○川原田英世副委員長 はい、わかりました。

そうなると、やっぱり検討委員会の中の議論というのに大きな関心が集まることは、これは避けられなくなってくると思うのですが、さらに周りの土地を買い上げるかどうかというお話にもなってくれば、利害関係も発生するということも考えられると思うのですが、その点で検討委員会の中に利害関係者がいると、いろんなまた複雑な状況が生まれてくるかというふうに思うのですが、その点はどのように考えているのか確認したいのですが。

○岩永雅浩庁舎整備推進室次長 私たちが言っているところは、今あるあーとのような形で使っている更地とそれから市有地のところですよ。

そこで始末をつけたいという説明をしてきたということです。

そして御意見をいただいているのは、さらに民間の方が所有している駐車場になっているところだったり、別の委員さんは建物含めてという御意見をいただいておりますけれども、そういう所有者が委員会の中に入っているということはありませんので、そこは先ほど山田委員からもありましたが、発言などについては注意をしながら議論を進めていくことになるというふうに思っています。

○川原田英世副委員長 そこは非常にデリケートな部分だというふうに思いますので、さらなる注意をしていただきたいということと、議事録を公開してはいますが、固有名詞については十分に注意されているかというふうに思いますが、そこら辺の扱い、また利害関係の今言った部分についても、いずれかの近い段階で、しっかりとした線引きではないのですが、していかないと厳しい判断があるかもしれないなと僕は思っておりますので、そこは十分注意をしていただきたいと思います。

聞きたいことは以上です。

○近藤憲治委員長 よろしいでしょうか。

それでは、その他理事者の皆さんから何かございますか。

なきようですので、理事者退席も含めて暫時休憩をいたします。

午後 2 時 50 分休憩

午後 3 時 00 分再開

○近藤憲治委員長 休憩前に引き続き再開をいたします。

今後は委員の皆様での自由討議という形で、この新庁舎の建設に係る論点整理、または委員の皆さんのそれぞれの問題意識を明らかにしていただきたいというふうに考えております。

それでは順次、発言をどうぞ。

○永本浩子委員 やっぱり私としましては、先ほども若い人のこの場所に関しての意見を聞く場はもうないというふうにおっしゃられましたけれども、まだまだそういう機会をつくろうと思えばつくれるわけなので、機能に関してだけというのではなくて、やっぱりそういう機会はぜひ持っていただきたいなと思います。

もう一つは、結局、市役所としてはラルズ跡地が最適地ということで決めて、こういった形で検討委員会が進んでいるけれども、最終的には市議会議員の3分の2以上の賛成がなければ決められないのですと言いながら、どんどん先に進んでいっている。

そこでもし、例えば市議会として3分の2がラルズ跡地じゃだめだというふうになったら、その積み上げていったものが全く意味がなくなるわけなので、その辺のところをどういうスパンで、きちんきちんとこう決めて前に進めていくのかというのは、1回きちんと確認しておく必要があるのではないかと思うのですけれども。

○近藤憲治委員長 スケジュールと大事なこの議決のタイミングですね。

○永本浩子委員 市議会議員の3分の2以上の議決というのを、どのタイミングできちんと取って前に進めるのかというのを決めないままに、ずるずるずるずると検討委員会をやって、こういうふうな内容に決まりました。

次はこういったことを検討しますというだけで、では私たちの3分の2以上というのは、どこでやっていくのかというのは、きちんとしていかないといけないのではないのかなと思います。

○栗田政男委員 永本委員のおっしゃるとおりなのですが、最終的には議会で決めなくてはいけない大切な議案であります。

3分の2以上の特別議決というのは、そうたびたびある議決はないので、それだけ重たいものがあるという認識を持っていますけれども、残念ながらその情報の提供というのは我々には極めて少ない。

3月の議会、6月はほとんど出ていなかったもので、3月にそういう提案があって、いろいろそういうお話をしたというだけの話なので、あと諮問委員

会はあくまでも諮問なので、市長が私的に諮問をして人を集めて、そこで検討していただいているので、非常に参考にはしますけれども、それがすなわち議会の議決に直接的に影響するものではないというふうに思っています。

ただ、そちらが余りにも頻繁に活性化してしまうと、積極的に進んでしまうと、こちらは何をやっているのかなという、そういう差が出てくるというのは非常に危惧しているところであります。

そういう意味からも、しっかりとしたスケジュール感を持ちながら、皆さんも御存じのように、もし、もしですよ、国の2割補助を求めるのであれば、再来年の3月には全て発注できる状態になったものを提示しないと、その対象にはならないということですから、それから逆算して、もう来年の今ごろにはほぼ全て決まっているという、そういう状況が生まれてくるわけですね。川原田委員が前回の委員会のときに言っていた「それを求めるあまり、拙速に進め過ぎているという感がないか」という意見に関して、理事者のほうとしては「それに対しては十分検討していたものを今出しているの、問題はない」という答弁をいただきましたけれども、僕もやはり何せその2割に目がくらんでいるという言い方がいいのかはわかりませんけれども、2割を意識するがゆえに余りにも急いでいるという感否めないし、土地の取得、庁舎の複合施設の問題、それを組み入れてもらえないかという発議をしたときには「一切考えていないと、ここの庁舎を向こうに持っていくだけの話だ」みたいな答弁をいただいたので、それでは余りにも、これから50年、60年使うもの、もしかしたら100年近く使うものを、そのような状況で進めていいのかなという気がしてなりません。

あそこに持つてくのは、先ほどちょっと言いかけたのですが、市民会館も含めたグラウンドデザイン全部がはつきりとあらわれて、だからそこに庁舎が必要なのだよというのが絶対に僕は必要だと思っているし、私の私見ですが、これからの庁舎というのは、市民がそこを有効に活用できる庁舎にしていかなくてもならないし、これからの来る人口減少にも備えて、建物が余ってきたときにはどうするのだと、それに対応できるような施設も考慮しながら、まあ当然考えるでしょうけれども、急速に進む人口減少にもあわせた庁舎の建設が必要ではないかなというふうに思います。

そこで複合的というのは、例えば社協とか、そういう施設をその中に組み入れることができないのかということです。

当然、皆様知ってのとおり海岸町の社協も、もう限度が来ています。

雨漏りがして、中にもいられない状況です。

そういうことも考えたときに、いろいろな縛りは多分国のことですからつけてくるのですが、そこを何とかクリアしながら、市民がそこに集い活用できるしっかりとした庁舎の建設が、私は求められているというふうに思います。

実は昨年、会派のほうで千葉県、茨城県と行ってきて新しい庁舎を見せていただきました。

ほとんどがそのような図書館がついていたり、キッズルームがあったり、いろいろなお弁当を食べるスペースが市役所1階にあったりと、いろいろなことが今行われていますので、ぜひともそういう環境のほうが私はベストなので、そういう考え方をひとつ取り入れて欲しいなという思いがあります。

以上です。

○近藤憲治委員長 栗田委員、前段で検討するに当たっての情報が足りないというお話がございましたが、具体的に明らかにしたい情報というのを何か今お持ちであれば…

○栗田政男委員 先ほどちょっと言いかけたのですが、やはり場所が決まらないことには、正直言って議論は進まないのですよ。

場所を決めるに当たっては、なぜそこなのだという、そこにちゃんとしたものがやはり先ほどの答弁でも聞いていても、そこはちょっと二次的なものだよというのであれば、あそこに持っていく本当の理由はあるのかなという、僕はやはりあそこにせっかく行くのであれば、4条通りの再生も含めた、やっぱり行政も絡めた中で、あそこに真剣に取り組んでいくのだという姿勢があって、初めてそこに庁舎が行く重みが出てくると思うのです。

商工会議所のほうからも早い時期に要請があったというのは、そういう思いがあって、商工会議所の会頭のほうからそういう要請があったというふうに記憶していますので、そういうものをしっかり受けた中で、そういう情報も内々にはやっているのでしょうけれども、我々のほうには伝わってこないのが非常に残念だということと、先ほども市民会館の話もしましたが、当然あそこに庁舎が建つのであれば、市民会館をどういう形でやっていくという二

次、三次のお話も当然出てくるでしょうし、もちろんこども、きょうの答弁では「土地を売って解体費に充てる」みたいな話でしたから、本当にそれで成り立つのかなというのが不思議に思えてしょうがなかったのですが、そういう情報も…答弁もかなりそのときそのときで変わってきていますね。

それは非常に気になる場所なので、それはいろいろな状況も変わっているということなのでしょうけれども、そういうことも含めて、我々のほうとしてもいろいろな情報をしっかり持った上じゃないと判断できないというような気がしてなりません。

○永本浩子委員 多分、情報が不足しているという感覚というのが、これがそうかどうかはわからないのですが、改選前の総務経済委員会でこの5箇所に関する詳しい説明があったのですが、要するに議員全員が聞いてたわけではない。

そして改選後、新人議員として加わった方は、そこが全くすっぱり抜けたままでスタートしていて、理事者側としては1回その資料を使って説明しているという思いがあるのかどうかわかりませんが、この最初に聞いたときほどの詳しい説明がないままに進んでいるということがあるので、かなりその辺の感覚のずれというのは、議員間でもあるのではないかなと思うのです。そしてきょうちょっと思ったのは、ホームページに載っていますから、そちらを見ていただければ結構ですって。

だけれども、今度10月1日目で4回目が開かれる。

でも、私たちとしてはホームページに載っているということも、事前に教えてもらってここに臨めればよかったのですが、決算特別委員会もいろいろ大変な全精力を注いでの決算特別委員会で、そこまで余力がなかったかもしれないのですが、ちょっとやっぱり不親切というか、やっぱりそこを今から…ここにパソコンがあって、見ながらでも質問とかができるのだったら別ですけど、結局そこを乗り越えて、今度また第4回目の検討委員会の結果をみたいな形になってくるのかなと思うのですが、何かその辺のところのちょっとしたずれというか、そこを修正していただけるともっといい話し合いというのができてくるのではないかなとは思いました。

○松浦敏司委員 率直に言わせていただくと、この間の市の取り組みというのは、金市館跡地につくるために既成事実をどんどん積み重ねてきたという印

象が非常に強いです。

それで、説明会を53箇所やって、ではどれぐらいかといえばたったの998名です。

そして大半が高齢者です。

1 番肝心の若者たちからは、農村地域は30代、40代の意見を聞いている、しかし町なかではほとんどそれはないに等しいとなると、その段階で場所を決めてしまうこと自体、検討委員会ですから、それは我々は手を突っ込めないで、どうしようもならないのですけれども、そこで決めるというのも非常に疑問を持っているし、それから永本委員が言われたように、我々総務経済委員会には示されているのだけれども、先ほども言いましたけれども、そもそもは東日本大震災が発端で、ここの災害を繰り返さないためというのが大前提にあるのだというふうに思っています。

それから予算の関係もありましたけれども、私のところにも複数で言われているのは、本当に50億かかるのかどうかはわからないけれども、国からその2割として10億入るから早く結論を出さなければならぬのだというふうに言っているけれども、それで何とか期日までにできたと、しかしでき上がったら、こんなものですかというふうなものができたら、これはもう子供たちに説明がつかないのです。

それなら、その10億に縛られることなく、少々時間がかかったとしても、しっかりと市民の声を聞いて、市民のために有効な、いわゆる使いやすい市役所をつくるほうがはるかにいいのだらうと思います。

10年や20年使うのではなく50年、60年という形で使うわけですから、そういう意味でもやっぱりもっと広く声を聞く必要があるという、これは私も実感しています。

そういった点で、ぜひやっぱり広く我々議員も実際に場所を見てみるとか、ということで検討する。

あるいは、我々も若い人たちに大いに意見を聞く場というのを持つ必要があるなというふうに思います。

今の金市館跡地のところに建てるというのは、面積的には1 番条件の悪いところですよ。

条件としても、決してよくない。

しかし、我々に渡された中でこういうものがあって、これは市のほうでつくったけれども、これ実は見せたのです。

これ見せたら、誰がこんなことを二重丸付けて、

バツをつけるのだと…これも非常に疑問を持たれました。

やっぱり、これは市の網走市庁舎整備推進室でつくったものなので、この判断も非常に疑問を持たれています。

ということも含めて、我々としてもしっかりとこの部分も検討する必要があるというふうに思います。

○近藤憲治委員長 スケジュール感と市民からの意見聴取のより広範なという部分と、あとは適地判断の是非についてという部分ですね。

○山田庫司郎委員 皆さんからいろいろ課題も出ています。

それで、ちょっと私の個人的な考え方ですけれども、5カ所をいろいろ比較検討する中で、ラルズ周辺跡地がいいということで議会として提案を受けている今の経過があるのです。

それで、市民の中もそうですし、議員の中でもいろいろな考え方をきくと持っていると思います。

それで、ここがいい、あそこがいいという考え方もありますし、さまざまなというふうに思います。

ただ1 点は、市民会館を解体したと同時に、あそこに建てるということが検討材料に入っていないのがなぜかなということ、まず一つは課題として理事者に聞いてみたいことなのですが、それで考え方として市の考え方が議会に提示をされています。

それで、そこではなくて違うところという議論も、それはしていてもいいのですけれども、余りこう広く議論してしまいますと先がおかしくなってしまうので、まず提案されている今のラルズ周辺跡地が理事者の説明に対してこういう課題があるよという、今これからその課題を上げようとしているのだというふうに私は思うので、何点か挙げながら、その整理がつかなければ最終的にどうするかという議会としての判断をしていかなければならないと思うのです。

そうは言っても、向こう側は来年の9月ぐらいの議会には、設置条例ということで提案したい考え方を持ってきていますから、その時点までにどういう方向づけが議会としてできるかという、やっぱりスケジュール感とスピード感を持っていかないと、私は議会の対応も遅れていくというふうに思っていますので、今までみたいな開催の日程ではなくて、せめて月に2 回ぐらい特別委員会を開くということで、検討委員会は検討委員会でやってもらって、う

ちらはちらで独自で議論していかなければ私はだめだと思いますので、何点か課題をもし上げるとするならば、まず、市が今提案しているところに対しての問題点をまず指摘して、そこを理事者側から説明を受けて、納得いく説明をもらわなければどうするかという議論になると思いますので、その論点整理を私はまずしていくべきかなとちょっと思うのですが、皆さんの意見をそこで聞きたいのです。

だからここもいいという意見もあわせて、議論していくのか、まずここをきちっといつかの時点で整理をかけて、それならここには無理だという判断を議会としてできるのなら、違う適地を議会としても考えていく方向を持つのか、その辺のスケジュール感と節目の整理をしていくべきだと思うのですけれども。

○立崎聡一委員 皆さんおっしゃられているように、スケジュール感、それから諮問委員会とのやっぱりずれというのは物すごいあるというのは感じます。

先ほど永本委員もおっしゃっていましたがけれども、3分の2以上ってというのが最後にはやっぱり出てくるのだろうなというふうに思います。

やっぱり理事者側としては、来年の9月ぐらいまでには出したいという、今、山田委員のほうからもお話があったのですけれども、もちろんそれはもっともな話だろうと思いますし、国から2割の補助ですか、それも非常に重要なことだと思います。

実際問題、人口も減っていくのだから、もちろん払っていく経済力というのは、これはだんだん少なくなっていくのは、もう目に見えているのですから、いろいろなやっぱり問題があって、でもなおかつやっぱりきちっと庁舎は建てかえを進めなければいけない、建てかえるということは皆さんそれは一致している意見だと思うのですよ僕も。

だから、その辺に向けてやっぱりうまく言えないのですけれども、スピード感とそれとやっぱり議論というのは、なかなか難しいのでしょうけれども、やっぱり調整していかなければならないのだろうなというふうに思います。

先ほど松浦委員のほうから、若い方の意見というものもありましたけれども、僕が聞こえる若い市民の意見というのは、僕の同業者の意見が多いので、やっぱり、まず場所もう大事なことです。

栗田委員が言ったように、もちろん大事なことですけれども、経済的な部分を考えると、やはり

きちっと答えを出してしまっほしいよねというのは出ています。

だから、どこを論点にして、どこから議論していったらいいのか、この委員会は立ち上がったのですけれども、実際どういう動きになっていくのか、どういう働き方をするのか、動き方をするのかというのもあるので、その辺はやっぱり山田委員がおっしゃったようにちょっと整理する必要もあるのかなと思います。

○近藤憲治委員長 永本委員、先ほどの続きがありますか。

○永本浩子委員 松浦委員が言っていたこれ、子供だましみたいな、この丸と三角の…いや、これはちょっと市民の皆さんもあれかなと、つくったのは整備推進室、この資料自体は整備推進室なのだけれども、これのもとになっているのはこれで、これは網走市の関係者ではない第三者の専門家に入ってもらった上の比較検討なのだということがやっぱりないと、こういったところをきちんとやっぱり話していないと、議論にならないのではないかなというのをちょっと思いましたので、その辺の丁寧さというのは大事なかなと思います。

○栗田政男委員 山田委員のほうから大変適切な御意見があったと思います。

まずは僕も考えていたのですが、市長サイドとしては、ラルズ跡地で推し進めたいという話がほぼ決定していると思うのですね。

ですから、そこに対してのまず議論をきっちりとして、早い時期にそこはどうしてもだめなのではないかという結論に達したのであれば、代替地という話にならないといけなのですから、本当にたくさん出た候補地も全部向こうサイドがつくっているものなので、必ずしもそれが適地だとは言いきれないのですが、それもこれも時間が限られた中できっちり議論する中では、やはり候補地というのは尊重しないといけなののですが、まずはラルズ跡地でほぼありきで、僕は最初からそういうふうによりきで進んでいると思っているので、それに対しての議論をしっかりと、あそこでも何とかできるのかということをお我々である程度意思決定をした上で、次の議論に進んでいかないと入り口のところでとまっているような気がしてならないのですね。

ですから、ぜひともその議論をそれぞれの会派も含めて、みんなで現地調査もお話が出ていましたが、まさしく必要なことだし、本当にイメージし

てそこでできるのかと、現場に行っているいろいろな話を聞きながらそれもしっかりと我々の委員会として対応するスピード感、山田委員のほうから月に2回が適切なのか、1回が適切なのか、僕は1回ぐらいのほうが1回で集中してやったほうがいいような気がするのですが、それも正副で考えていただければいいですし、やはり最低でも月1回は開いていただいて、きっちりとした議論をしていきたいなというふうに思います。

○石垣直樹委員 私も皆さんと大方同じなのですけれども、今回のこの委員会が3回目になるのですけれども、全く何も積み上がっていないのかなというのが一つと、論点をしっかりと整理して進めていかないと、ただ雑談に終わってしまうのかなというふうに思います。

また、理事者側の説明に関しても、やはり前回のときは土地買収はしませんが、お金がないからしませんがと言い切ったのに、今回はころっと変わっていると、余りにもちょっと話の前提が次々変わっていくので、なかなか議論が前に進まない状況も理事者側にもあるのかなというふうに感じます。

そして、自分も個人的に旭川の市庁舎建てかえの設計にかかわった方とお話をしたのですけれども、やはり土地が、場所が1番大事だと、場所をしっかりと検討してくださいという御意見をいただいております。

また、来年の先ほど9月というお話もございましたけれども、前回説明のあったのが6月だと思うのですね。

○近藤憲治委員長 まず6月までに、現在市がやっている検討委員会としての一定の結論をまとめたいということで、上程の時期については、明確にいつというのは示されていません。

○石垣直樹委員 9月になるかもしれない、そこはわからないということですね、わかりました。

けれども来年の半ばまでには、市役所庁舎の基本構想を決めなければならないというスケジュールが出ている中で、やはり月に一度、二度程度で進めていかないと検討委員会と議員側の差も開いていくことになるので、そこで広がったものが来年の今頃には物すごい差ができてしまうおそれもあるので、足並みをそろえて進めていく必要があるのかなというふうに感じます。

基本構想ですから、やはり場所だけではなくて、それ以外の分も多々あると思いますので、しっかり

と検討していかなければいけないと思います。

以上です。

○近藤憲治委員長 それ以外というのは、機能面も含めてというニュアンスでしょうか。

○石垣直樹委員 そうですね。

○近藤憲治委員長 他に言い漏れ等ございますか。

○川原田英世副委員長 僕のほうで論点として考えているのが、まずはこれまでの経過でちょっと拙速ではないかというときに、5年かけてやってきたのだという答弁が副市長のほうからあったのですが、その5年が全く見えないのですね。

なので、5年かけてやってきましたという説明を受けたときに、ちょっと違和感を感じてしまったのですけれども、やっぱりこれまでの経過をしっかりと明らかにしていってほしい。

それで、今ここに至っているというところから、先ほど選挙もあって変わったということもあって、情報がちょっと共有できていないのではないかなということも含めて、この5年というところはどういう経過だったのかをもう1回整理する必要があるのではないかなと、そこをしっかりと聞く必要があるというふうに思っています。

それと次に、補助についてなのですけれども、2020年というけつが決まっていて、2割の措置をする財政措置をするということですから、それが明確なものなのかどうか、その分ほかのものが削られるのではないかなと思ってしまうところもあるのですけれども、いずれにしても、それ以外のものがあるのではないかなという疑問がやっぱり残ります。

防災機能もつけるということが前提であるのであれば、防災系のそういったほかの予算のことも考えられるのではないかなと、何もこれに焦っておしりを追われていく必要がないと思うので、ほかのそういった補助のあり方をちょっと検討していくとか研究していく必要が委員会ではあるのではないかないうふうに思います。

そこのお金の部分にあわせて、意見として先ほど市民会館のことが出ていましたけれども、市民会館を5番の土地の検討以外にもちゃんと加えて検討すべきだと思うことと同時に、あそこはもう箱物が建っていますから、となると、あそこに行く場合は壊して建てる多年度の事業になってくると思うのですね。

すると、やはり財政負担の部分でもバランス的に変わってくるということもあって、補助金のあり方

もちよつと変わってくるというふうにも思いますので、負担が大分軽減されるのではないかという一方の意見もあることもあります。

それがどうなのかはちょっと僕にはわからないのですけれども、そういった検討もあります。

多分していて当然だと思っているのですが、そこら辺の他の場所の試算だとか、そういう現有地に建物が建っているけれども壊す計画のある場所の利活用、この庁舎も含めて、そういった部分での試算、多年度で分けたときの試算、財政的なものを示していただきたいなと思います。

つまりこれにかかわっていくと、中長期の財政計画、この庁舎も入れた中での財政計画というものがどのように考えているのか、若干計画の中で触れていますけれども、あまりにもざっくりなので、もう少ししっかりしたものを出していただかないと、ほかにもさまざまな負担もあるでしょうし、人口減少に伴ってやはり税収も減っていくわけですから、そこをどう考えているのか。

そして、やっぱり今進めようとしている場所の地盤の関係の情報がまだまだ少ないなというふうに思いますので、その部分の整理も必要なのかなというふうに思います。

そこら辺のところを、僕としては次々議論をしていきたいなというふうに思います。

○栗田政男委員 今、川原田委員の方から資金面の話、それも大事なのですが、まず場所が決まらないとなかなかあれなのですが、今美幌が新しく建てています。

あそこは環境省の補助を使っています。

これは、原課のほうでも調べてくれという指示を出したのですが、かなりの額です。

それは多分、原課でも知らなかったもので、ただそれは町村だけの限定なものか、市が使えるかは別なのですが、いろいろなメニューがあるので、それもやっぱり私たちは予算を通す立場ですから、しっかり議論していったほうが良いとします。

以上です。

○近藤憲治委員長 先ほどの山田委員のお話の中で、精査させていただきますけれども、現在市が考えている場所での具体的問題点についても、掘り下げるべきだというお話がございました。

そこも、やるべきだと問題点を掘り下げるべきだというふうなお話があったと思うのですけれども…はい、山田委員どうぞ。

○山田庫司郎委員 委員長がしゃべっている途中で口を出して、御指名いただいたのでしゃべりますけれども、先ほど言ったように、いろいろな適地を考えている人もいますし、それも全部含めて最初からスタートして議論していったら、私は議論が散漫になっていくのではないかと心配している1人なのです。

ただ言ったのは、市民会館が比較検討のここの中になぜ入らなかったのか、入ったのかも含めてそれをまず冒頭に聞きたい一つの課題ですけれども、それで、今ラルズ周辺跡地ということで市のほうから提案があって、議会が特別委員会を設置している状況です。

○近藤憲治委員長 提案はまだないですよ、正確に言うと。

○山田庫司郎委員 総務経済委員会に一応こういう結果ですよって話が出てきているわけだから…報告でも何でもいいのです。

それはどういう形でもいいのですが、報告でも、提案でも、どういうものでもなくても、大事だから特別委員会をつくって議論しているのだから、課題は課題なのだから…だから、そこはきちっとね。

今その周辺跡地のことで、向こう側が言っている例えば3,950平米と1番面積が小さいところがなぜ適地か。

例えば、そこまで議論して私たち特別委員会として、この課題はどうかのだと、これはどうなんだ、これはどうするのだっていうこときちっと整理する中で議論して、きちっとした答弁をもらえれば、それを私は納得しているかもしれません。

わかりません最後はね。

ですけれども、そこから議論を始めていくべきかなと思います。

○近藤憲治委員長 ちなみに、確認したいのですが、ラルズ周辺の部分で明らかにしたい課題、問題点がもしあれば、お話しいただければ…

(「一度、整理をしないと」と呼ぶ者あり)

きょうはですね、一度皆さんにお話しいただいたものを…

(「本庁舎のほうがいいとか…」と呼ぶ者あり)

山田委員いいですか、ちょっと説明していますので、きょうは広く御意見、問題意識、論点を出していただいて、一旦正副で預らせていただいて、どのような順序で議論をしていくのがおさまりがいいのか、そしてまた、市のほうで示されているスケジ

ジュール感におくれをとらないようなペースで委員会を開催して、さまざまな確認を重ねていくにはどのようなスケジュール感がよいのかを含めて、改めて皆さんにお示しをさせていただきたいというふうに思っていますので、きょうは本当に皆さんが素朴に感じていらっしゃる、この部分を明らかにしたいというものを広く出していただきたいというふうに考えております。

○山田庫司郎委員 まず1点目、先ほどちょっと説明あった地盤、地下のことを含めて、近隣の高層の建てたところの資料とか、聞き取りとか、過去の地質調査のデータ等を含めて五から七メートルの杭で支持層に入ると、水位は1.5から1.8メートルですという説明があったのですが、改めて地質調査をして、きちっと何カ所かやるのか、地盤の問題で非常にこれはもしかしたら10億円の20%の交付税ですけども、補助もらうということもそれも全部吹っ飛んでしまうかもしれない、場所によってはね。

そういう問題ですから、まず建てる地下の部分がきちっとやっぱりどうなのだという議論を私はしていきたいと、そういう意味では簡単な地質調査でもいいから今の時点でやるべきではないかなと思っています。

それと面積の問題ですが、きょうも委員会の中で委員からそういう発言があったと、先ほど石垣委員も言われていましたけれども、理事者のほうは答弁が変わったわけではないのです。

ああいう意見があったということを報告しただけなのです。

だから、市役所側はあの意見を聞いて、私たちは買いますという答弁をしていませんから、ですからここの面積の問題とすれば、ラルズの跡地が駐車場としか使えないという限定の中で6条側に建てるとなると、非常に狭い面積の中に7階建てになるか、何階建てになるかわかりませんが、そこに建てるというふうに考えたら、庁舎としての機能というものがあるということ、非常に私は問題があるというふうに思っていますから、そうすると検討委員会の中で出たような周辺の土地も、何ぼかかるかも試算しながらもどうなのだという議論というのは、改めて出てくる可能性も私は面積の問題であると思います。

それと栗田委員からも出ていましたグランドデザインの問題もそうですし、私は2回目の委員会でも言わせてもらいましたが、警察署、税務署、

今までの市役所の近隣にありました。

銀行関係いろいろあって農協もある。

そこで、今度建てるには美術館がありますし、市民会館も確かにあります。

そして四条商店街もあるわけですし、そういう意味で、これからのまちづくりとして、どういうやっぱり発想をもって網走市をつくっていかうとしているのかということが、都市計画マスタープランなんかもあるかもしれませんが、そういうある程度の基本的な部分の考えがなかったら、市役所だけあそこに移ってきました。

はい、税務署が違うところに行きました。

警察も違うところに行きました。

農協も上に上がりました。

いろいろなことがそうなったときに、そうしたらまちとして機能していくのかという問題が出てこないかということで、将来のこともある程度見据えた配置というものも考えていくべきだろうと、そういう意味ではグランドデザインも一つありますけれども、まちづくりの全体像というのも、ちょっと考えていかなければならないだろうと、こんなふうに思っています。

それと、先ほど栗田委員からも出ました複合施設や多目的利用のやっぱりスペースというものも、どうだろうということです。

こうなりますと、これから基本構想ができ上がってから、ある程度の設計になってみないとわかりませんという話が出るのですが、私は市としてある程度の考え方を、大ざっぱでもいいですけども、デザイン的なものを持っていなかったら、私はだめではないかとちょっと思っている1人なのです。

でも、これは向こう側がどう言うかは別です。

それと、活性化には直接つながらないという考え方も市としては結果として考えました。

「それは民間が主導でやりますから」ということは先ほど答弁いただきました。

それで、庁舎を建てることによって4条や商店街が活性化につながるということは本当にどうなのだという事は、もう何回か議論をさせてもらっているので、ここがやっぱり大きな課題ですが、今回改めてああいう回答をもらっているの、本当にその民間に任しておけという話ですが、本当にそれでいいのかどうか、私は非常にあるのです。

それと、先ほども言ったように人口減少、これから20年30年たてば網走市の人口がどれだけになる。

そのときに、庁舎っていうのは必要なくなってくるスペースも多くなるという考え方も持ちながら、どういう庁舎を建てるかというある程度の基本的な考えを持たなければ私はだめだと思います。

過剰投資しておいて、後でスペースがあいたから今度こういうふうに使います。

そういうやり方もあるかもしれないけれども、今の時点でそういうこともきちっと考えていくべきかなと、こんな問題もあります。

それと防災センターも兼ねます。

ただ、防災センターとなると、お聞きすると、基本的には高台に逃げていただくのと、そのときに障がいのある方、高齢者、車いすの方たちも含めて、近くの方がそこに逃げていただきたいという考え方を持っているということで説明を受けるのですが、そうしたら、その想定として何階にスペースをつくって、何名ぐらいを仮に一時避難してもらにしても、何名ぐらいの規模を考えているのか、そして今度対策本部もそこに兼ねるという話をしていますけれども、本当にこれどうかなという問題も一つあるのですが、その辺がやっぱり明確になっていかなければ、防災センターの機能として、実際に地震になりますとエレベーターは止まりますから、そうすると、車いすで来た方たちを3階まで職員二、三人で上げていくのかと、こういう議論だって出てくるのですよ。

そうしたら「あなたたちは来れませんから上に行ってください」とちゃんと送れるのかどうかとかね、細かいこと言えばですよ。

だから、雑駁に考えて答弁するけれども、本当に具体的になったときにどういうふうになるのということも、ある程度は考えておかねばならない。

だから防災の視点、防災機能の面でも、いろいろはっきりある程度のことを聞かないと、そうかというふうには私はなかなか納得していないのです。

それと20%の補助があります。

確かに、今の網走市の財政を考えたときには、補助でももらえれば大変ありがたい話です。

でも、皆さんも言われていたように、それがために拙速に建物を建てて後で困ったことにならないように、私はそこは仮に来年になっても案がまとまらない、きちっと考えがまとまらないのだったら、10億円を投げてでも、私は時間をかけて議論すべきだと思います。

こういうことも頭に入れなければならないのかな

と思っていますので、この20%の補助にこだわる理事者側の立場は理解しますが、これは財政的な話ですから間違いがないと思いますけれども、交付税ですから、国に対して失礼な言い方ですが、わからないのですよ。

どこに入ってきたのかというのは、疑えばきりがないのですが、ただ20%で戻るという話ですから、それは信用させていただきますが、余りそのために拙速に動いて大変な後悔のある結論は、私も出たくない考えもありますけれども、大事な10億の補助というのはありがたい話だという側面もあります。

それで今後の進め方ですが、やっぱりちょっとスピード感を私たちも持たなければだめだし、検討委員は検討委員会で進めていただいているのです。

そして逐次あった報告は受けて、中身をちょっと聞くぐらいで、そこに対してどうのこうのと私たちの立場では言えませんから、聞きながらうちの中で議論をちゃんとしていくということです。

ちょっと何点か、まだまだありますけれども、代表的な課題を上げさせていただきました。

○近藤憲治委員長 まだまだある部分については、後ほど正副に教えていただければと思います。

他にございますか。

○栗田政男委員 大方、まずはラルズ跡地の検討しつかりやろうという方向性ではないかと思うので、ぜひとも早いうちに進めていただいて、本当に結論が遅くなったら、ほかに変えようがなくなってしまうし、何度も言いますが、ありきで進んでいるのは間違いだと思います。

なぜかと言うと、これは個人的私見ですが、網走高校を売却した段階から、この場所の活用は考えていなかったというふうには私は思っています。

だからそういうことも考慮において、あともう1点、駐車場の問題が多々出ていたのですが、イベントスペースで今いろいろ活用しているところは、本当に狭いのですよね、あれ何台とまれるのかわからないのだけれども、これから建てる庁舎の駐車場としてはいかがなものかと、二階建て、三階建ての物をつくるのか、何するのかわからないのですが心配をしております。

イベントのときは駐車場は締め出して、その辺に止めてから歩いて下さいみたいな話になるのかなという不安もありますので、それも含めて検討したいと思います。

○松浦敏司委員 やはり市役所がどこに建つかというのは、ある意味網走市全体のまちづくりに影響を与えるということですから、そういう意味でもいろいろな知恵を出し合う、あるいはそれぞれの市民からの声も聞いて、そしてそれを大いに生かすということが大事ではないかなというふうに思いますので、月に2回ぐらいのペースというお話もありましたけれども、そういったペースでやっていかないと間に合わないのかなというふうに思っているところです。

以上です。

○近藤憲治委員長 他にございますか。

それでは、きょうさまざまな御意見をいただきました。

開催頻度をさらに上げながら議論を深めていくという部分でございますので、一度正副で全ての御意見を預からせていただいて、年間通じてどのような形で進めていくかも含めて、次回に御提示をさせていただいて、その後はそのメニューに沿って議論を深めていくというふうにさせていただきたいと思います。

他に、委員の皆さん、何かございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

なきようですので、これをもちまして、新庁舎建設特別委員会を閉会いたします。

長時間にわたりまして、御議論いただきましてありがとうございます。

御苦労さまでした。

午後3時43分閉会
